【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成27年6月25日(2015.6.25)

【公表番号】特表2014-513328(P2014-513328A)
【公表日】平成26年5月29日(2014.5.29)
【年通号数】公開・登録公報2014-028
【出願番号】特願2014-509518(P2014-509518)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　5/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　5/20

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月28日(2015.4.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第1及び第2のテンプルがそれぞれ取り付けられた第1及び第2の辺を有するフレーム前部を含み、該フレーム前部が、前記第1及び第2のテンプルに枢動自在に結合され、アイウェアを着用した人が前見調節位置と近見調節位置との間で前記フレーム前部を回転させられるようにする複数の傾斜調節位置を提供する、アイウェアであって、
上側長辺と第1及び第2のテンプルがそれぞれ取り付けられた第1及び第2の短辺とを有するフレーム前部と、
枢動軸を画定する第1及び第2の枢動継手であって、前記第1の枢動継手が、前記フレーム前部の前記第1の短辺と前記第1のテンプルとを動作自在に連結して相互に対して枢動させ、前記第2の枢動継手が、前記フレーム前部の前記第2の短辺と前記第2のレンズアームとを動作自在に連結して相互に対して枢動させる、第1及び第2の枢動継手と、
アイウェアを着用した人の鼻梁上の第1及び第2の接触点にそれぞれ載置された第1及び第2の鼻梁接触面をそれぞれ有する第1及び第2の鼻当てを前記フレーム前部にそれぞれ結合する第1及び第2の鼻当てアームであって、前記第1及び第2の鼻梁接触面と前記フレーム前部との間に離隔距離を設定する方向に前記フレーム前部から延在して垂直降下距離を確立し、該垂直降下距離により、アイウェアを着用した人が前記フレーム前部を前記枢動軸の周りで前記近見調節位置まで回転させて前記フレーム前部の前記上側長辺越しに見ることができ、前記フレーム前部を前記枢動軸の周りで前記近見調節位置まで回転させる間、前記第1及び第2の接触点をアイウェアを着用した人の鼻梁上の実質的に安定した位置に維持することができる、第1及び第2の鼻当てアームと、を備えているアイウェア。
【請求項２】
前記第1のテンプルが、前記第1の枢動継手によって接合された第1の前方部分及び第1の後方部分を含み、前記第2のテンプルが、前記第2の枢動継手によって接合された第2の前方部分及び第2の後方部分を含み、前記アイウェアが、前記フレーム前部の前記第1の辺と前記第1のテンプルの前記第1の前方部分との間に位置決めされて第1の折り畳み軸を画定する第1の蝶番継手と、前記フレーム前部の前記第2の辺と前記第2のテンプルの前記第2の前方部分との間に位置決めされて第2の折り畳み軸を画定する第2の蝶番継手とをさらに備えている、請求項1に記載のアイウェア。
【請求項３】

前記第1及び第2の折り畳み軸が、相互に平行であり且つ前記枢動軸に対して直角である、請求項2に記載のアイウェア。

【請求項４】

前記第1の鼻当てアーム及び前記第1の鼻当てが一体構造であり、前記第2の鼻当てアーム及び前記第2の鼻当てが一体構造である、請求項1に記載のアイウェア。

【請求項５】

前記第1の鼻当てアーム及び前記第1の鼻当てが、相互に接合された別個の構成部品であり、前記第2の鼻当てアーム及び前記第2の鼻当てが、相互に接合された別個の構成部品である、請求項1に記載のアイウェア。

【請求項６】

前記第1のテンプルが、前記第1の枢動継手によって接合された第1の前方部分及び第1の後方部分を含み、前記第2のテンプルが、前記第2の枢動継手によって接合された第2の前方部分及び第2の後方部分を含み、アイウェアを着用した人が前記フレーム前部を前記枢動軸の周りで回転させたときに前記第1及び第2の前方部分が前記フレーム前部と共に回転するように、前記第1及び第2の前方部分が前記フレーム前部の前記第1及び第2の短辺にそれぞれ動作自在に連結されている、請求項1に記載のアイウェア。

【請求項７】

前記枢動軸の周りでの前記第1及び第2のテンプルに対する前記フレーム前部の枢動の範囲を制限する、前記第1及び第2の枢動継手にそれぞれ関連付けられた第1及び第2のストップ部材をさらに備えている、請求項1に記載のアイウェア。